

オプション取引

オプション取引のトレーダーは原資産の動きから利益を得ようとします。原資産価格の動向で取引するもの（ディレクショナルトレード）とその価格の変動で取引する（ボラティリティトレード）があります。

オプションを利用する主な利点は、原資産である金融商品の売買をする必要がないことや、取引の決済に関してはペイアウトの受け取りが迅速であり、オプションの決済にマージンが課せられていないため、取引に追加コストが生じない点です。

レバレッジ

オプションを使用する他の利点はレバレッジを利用できることです。レバレッジはギアリングとも呼ばれています。この用語の捉え方は、小さいインプットと大きいアウトプットからきています。価格やオプション料に比べて、見込みペイアウトのサイズが大きいこと、またはオプションのコストに比べて原資産のポジションのサイズが大きいことからオプション用語として使用されています。



バイナリーオプション取引の範囲とストラテジー

バイナリーオプションでは、一般的にトレーダーは価格の動向をみるために短期のトレードを選択します。予想が正しいかを見るために、たいていトレードの結果を待ちます。パターンを把握したり、開始される特定のイベントや経済データを確認するために価格チャートを見ることでしょう。

しかし、長期トレーダーほど数日、数週間、数カ月先の市場の動向への洞察力が優れています。経済観や価格の長期トレンドへもっと注意を払うことでしょう。

ストラテジーの取引を見積もる時間の長さを**投資期間(短期・長期)**といいます。

両タイプのトレーダーは、ターゲット価格の水準にあるポジションの売却を視野に入れるか、または特定の価格レンジで何度も売買をして原資産のボラティリティトレードをすることができます。

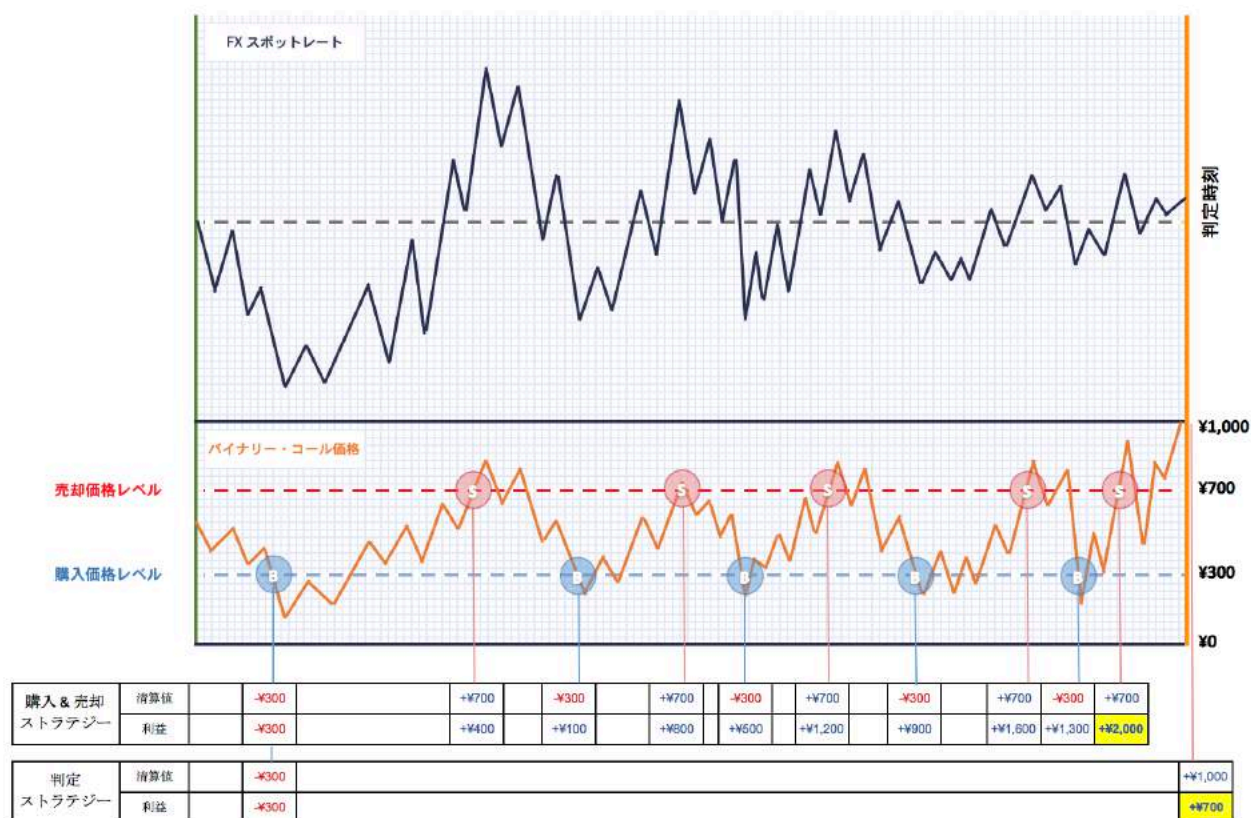
取引とヘッジ



Binary.com
Trusted by traders since 2000

バイナリーオプションの主な特徴として、**2 ウェイ・プライス**を利用することができます。市場のいずれの方向においても同等の取引機会があり、取引中に反対のポジションで新しくトレードを行うか、単にオプションの売り手へ売却することで損失を補うことができます。

これによりトレーダーはストラテジーに従い、市場に応じた方向性で取引が可能になります。例えば、高いボラティリティの時間に価格を予想したり、判定時刻まで待つよりも、選択したオプション価格でポジションを売買した方が有利な場合があります。



上記で表記されているように、両方のストラテジーの初期投資と最大損失は同じ 300 円です。

しかし、原資産の外国為替レートにおいて、2 つ以上の購入と売却取引を生み出すのに十分なボラティリティがある場合は、「購入&売却」ストラテジーは「判定」ストラテジーよりも高いリターンとなります。

バイナリーオプションの購入と売却の価格には金融商品取引業者へのスプレッドを含んでいます。そのため、ポジションの頻繁な取引には複数回のスプレッドを支払うことになり、ストラテジーの収益性を低下させることになりますのでご注意ください。

収益性に関しては多様な取引ストラテジー、受け捉え方、意見や主張があります。しかし、それらはバイナリーオプション取引において利益を生み出すまたは成功させる手法であると保証しているものではありませんのでご了承ください。

キーポイント

- 原資産でポジションをとる必要はありません
- オプションのペイアウトには取引手数料やスプレッドは課せられません
- 投資期間は短期または長期取引があります
- 短期取引のトレーダーは価格パターン、ニュース、イベントに焦点を置く傾向があります
- 長期取引のトレーダーは価格トレンドや経済指標に注意を払う傾向があります
- 2 ウェイ・プライスの提示により、リスクを相殺するためにコールオプションとプットオプションの両方を購入することができたり、取引期間中にポジション解消のために売却取引することもできます。
- 頻繁なストラテジーの取引は両建てリスクを伴いますのでご注意ください。
- 取引ストラテジーは容易に利益を生み出すことを保証するものではありません。

オプションを利用したヘッジ

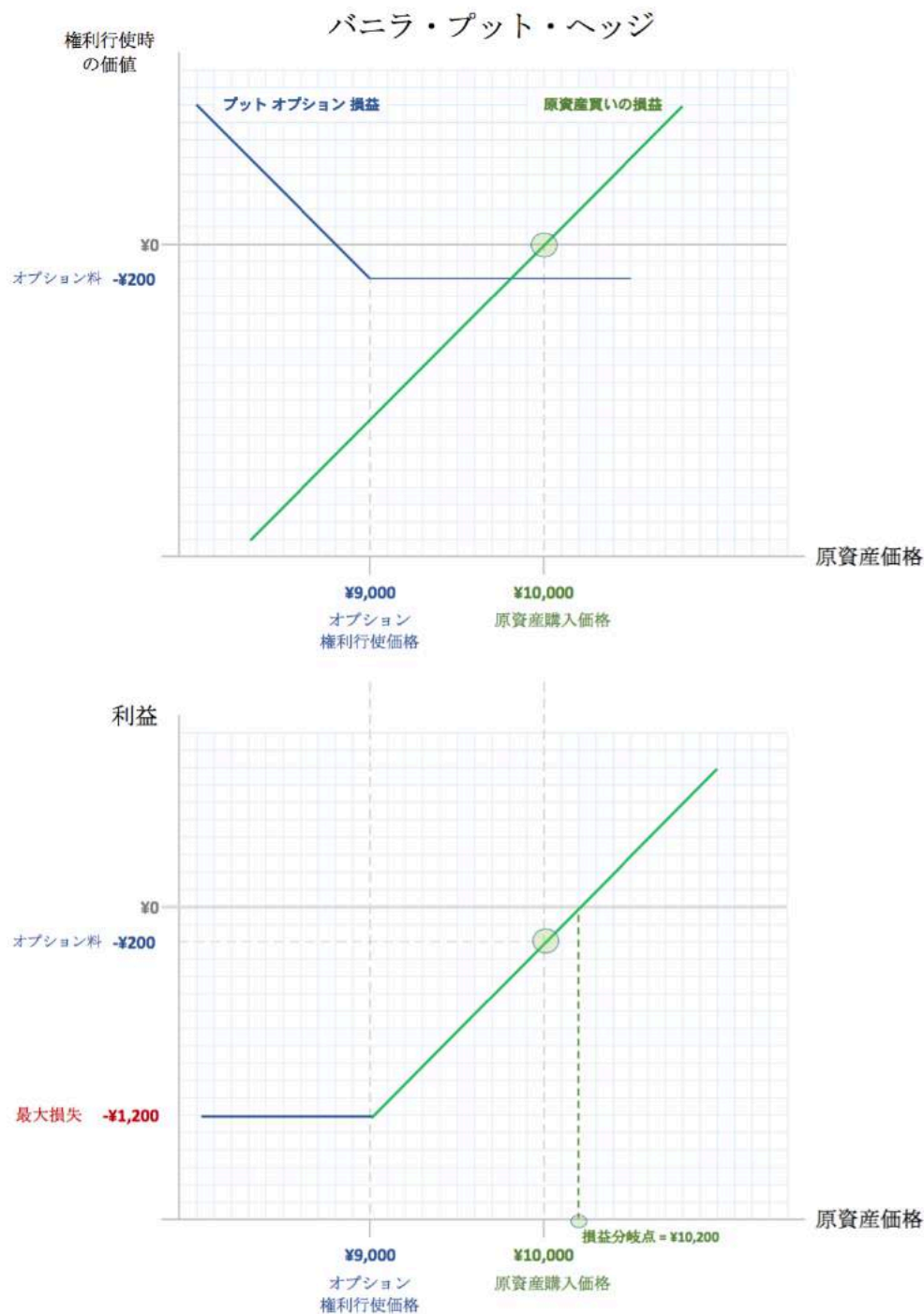
ヘッジとは異なる金融商品または資産でポジションを取ることによってリスクを補うことを言います。

ヘッジトレーダーは価格がどのように関連するか、リスクを軽減するためにとるポジションをどのように個々の取引と組み合わせるかをよく見えています。

シンプルな方法では、価格の不利な動きから守るため、金融資産の価値に保険のようにオプションを使用できます。長期取引では価格の大きな変動を、短期取引においては特定のリスクやイベントをカバーすることができます。

以下の例では、資産を購入した投資家が損失を制限しようとしませんが、資産の価格が大幅に上昇した場合、そこから利益を得られる可能性はまだあります。そのため、各単位で最大損失を 1,000 円にするために設定した権利行使価格のバニラ・プットオプションを購入します。オプションは一単位 200 円のため、実際の見込み損失総額は所有する単位数×1,200 円になります。

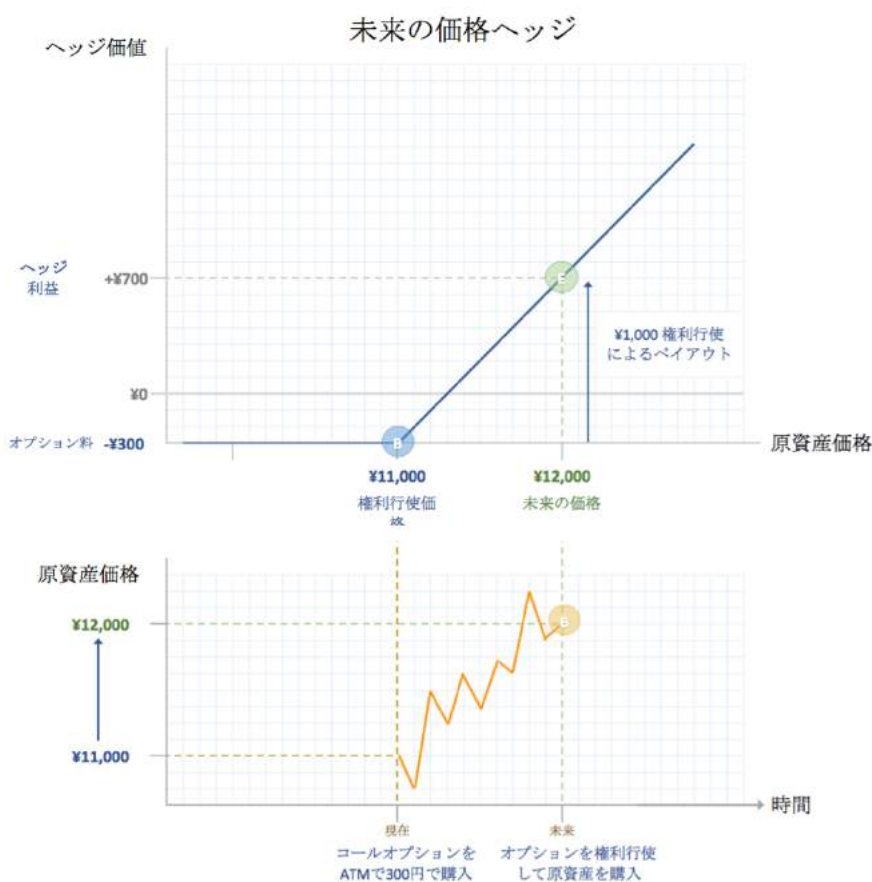
資産価格が 9,000 円に下落した場合、その資産の損失額は所有するプットオプションの権利行使額の利益で相殺することができます。



また、一単位 10,000 円で資産を購入した場合に、相殺するのに価格が 10,200 円必要になるということを意味します。しかし、価格が水準より上昇すると、プットオプションからの下振れリスクを保護しながら、価格上昇の恩恵を十分に得ることになります。

今後の価格上昇から守る方法としてもバニラ・コールオプションを使用することができます。これは原資産のショートポジションを所有している投資者、または将来購入する必要があるが、時期が定かではない場合に必要となってきます。

将来購入予定である場合、アット・ザ・マネーのバニラ・コールオプションが今と購入予定時期の間の価格上昇を補うでしょう。例えば、3ヶ月後に資産を購入する必要があるとします。そして、価格の上昇を懸念して11,000円の現行価格の権利行使価格でバニラ・コールオプションを購入します。オプションコストは300円です。

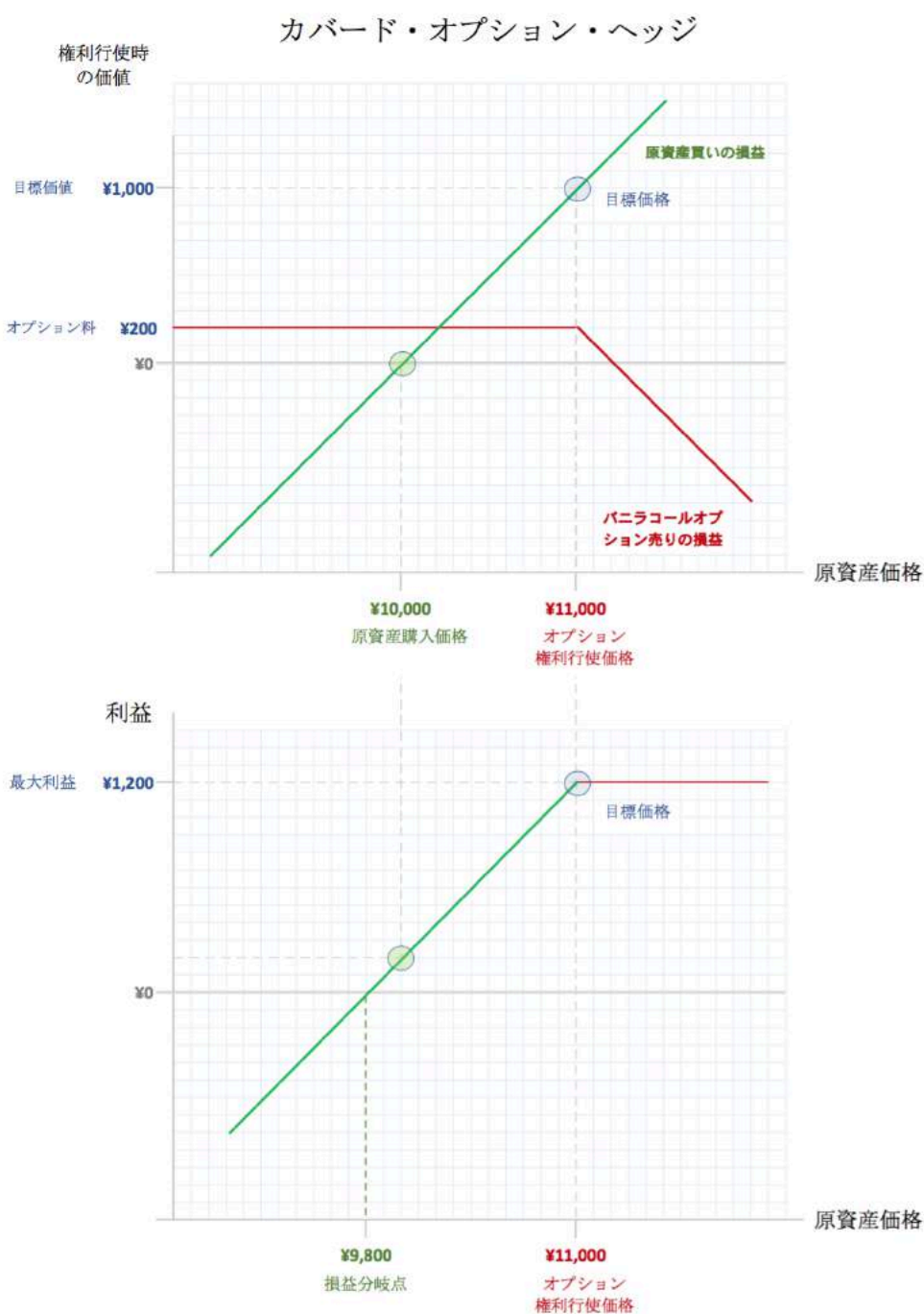


12,000円まで価格が上昇するとし、元値の11,000円で購入するために所有するオプションを行使することができます。オプションが決済されれば、将来の決済価格とオプションの権利行使価格の差額を受け取ることになります。この場合は1,000円です。オプションの購入は300円ですが、それを購入していなかったら、価格は1,000円になっていました。価格が上昇するほど、ヘッジの利点はさらに大きくなります。

逆の場合、購入時に価格が下降すれば、安い金額で購入することにより利益を得ることでしょう。オプションのコストは失いますが、より良いポジションで取引ができます。



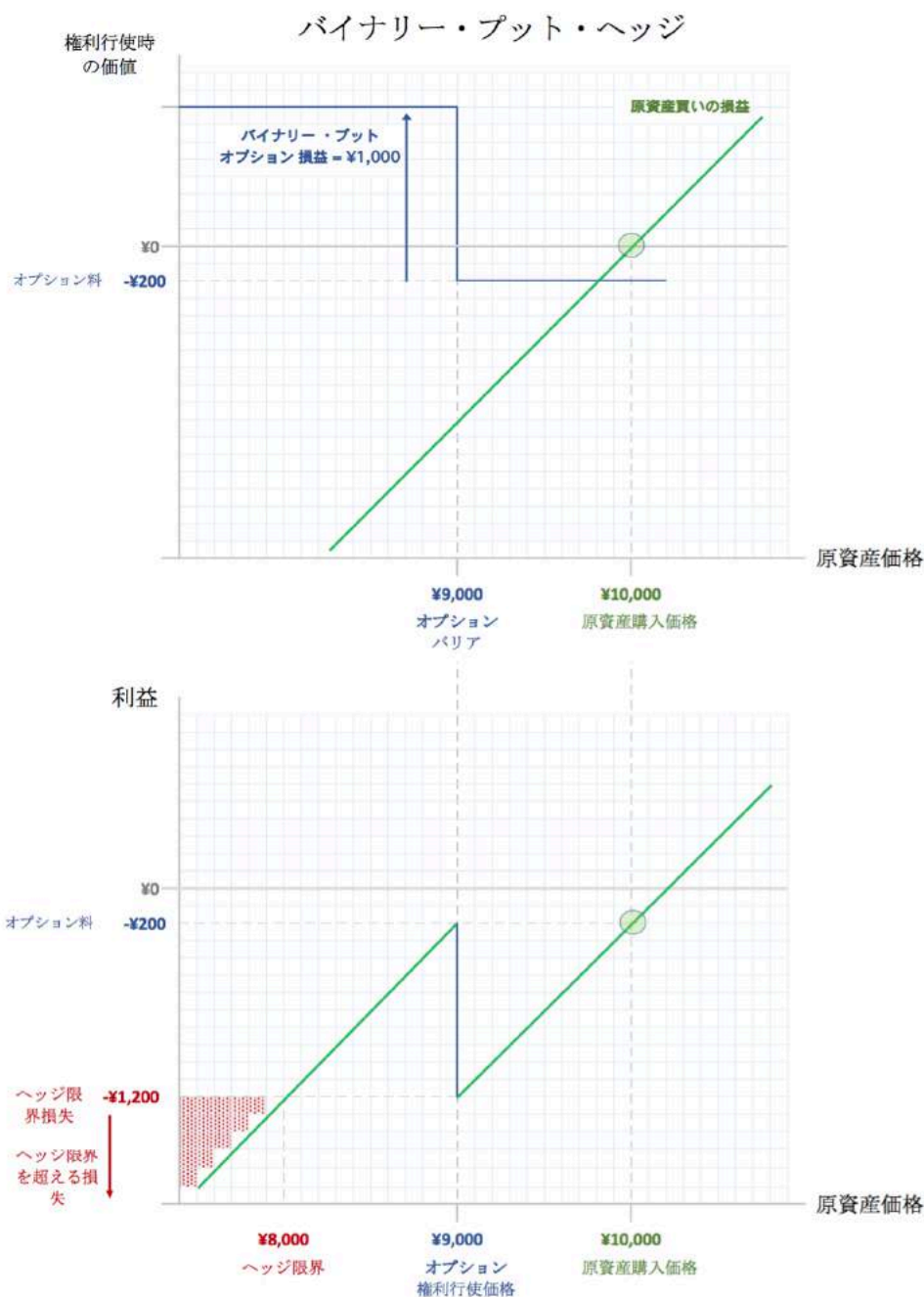
特定の資産を所有する投資家に役立つもう一つのオプション・ヘッジ・ストラテジーは、バニラ・コールオプションを売却することです。受け取ったオプション料は価格の下落による損失を軽減するでしょう。また、ポジションの見込み利益を制限することになりますが、価格が上昇した際に、その水準で売却しようと考えているなら、このストラテジーを用いればリターン総額を増やすことができます。このストラテジーをカバード・オプション・ヘッジといいます。





バイナリーオプションを利用するヘッジ

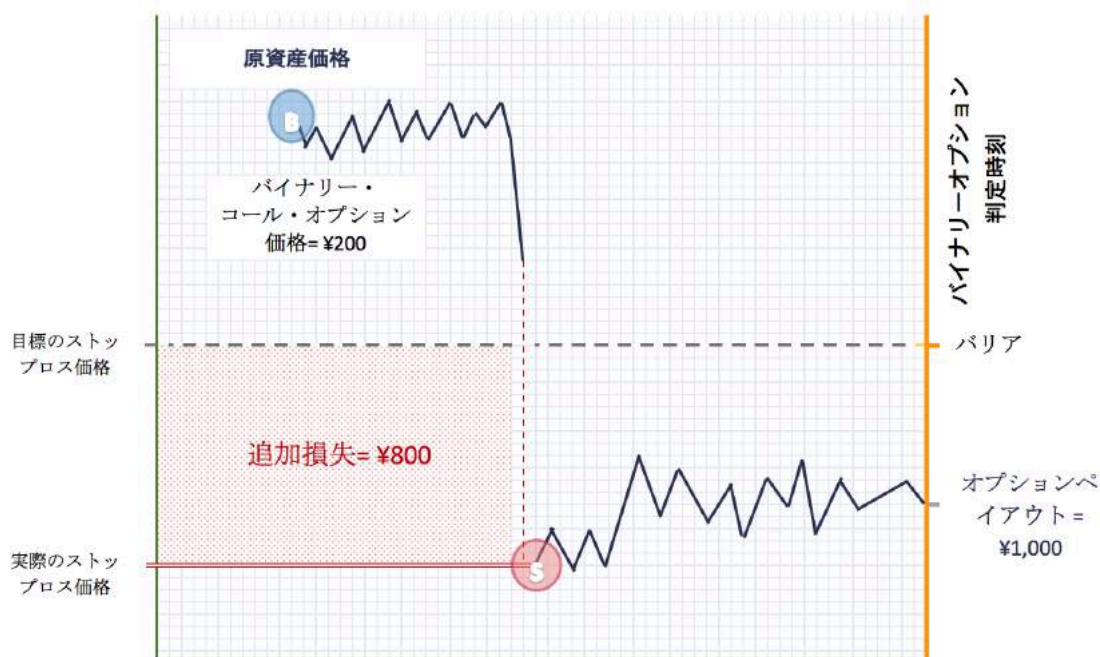
バイナリーオプションでのヘッジは、オプションのペイアウトが固定であるため異なります。従って、原資産のポジションに正確に一致することはないので相殺はできませんが、その代わりに、資産の報酬ラインを変える効果があるシングルペイアウトが提供されます。



オプションのペイアウトは、ヘッジ限界より低いポイントへ価格が動いた場合にのみ補うことができます。それ以外のポイントでは、オプションヘッジによるカバーはありません。

この種類のヘッジは、突然の価格の下降から守るために、短期取引であるほどより役立ちます。例えば、重要な経済データが発表された際に起こります。このようなヘッジは資産価格の下降によるリスクを補うために、即座にペイアウトを行います。投資者はポジションを見直し、売却するか、価格が回復するのを待つかを決断することができます。

また、価格の動きがかなり早い場合に、ターゲットとしているストップロスの水準でポジションを売却することは常に可能なわけではありません。このような場合に、バイナリーオプションヘッジは、予期していた水準よりも低い価格で売却しなければいけない場合に補うことができます。



上記の表の例のように、予定されていた重要な経済データの公表後に、判定レートが短時間でターゲットのストップロス以下になった場合、投資家はペイアウト一単位 1,000 円のバイナリープットオプションを購入します。

資産価格にかなり悪影響のあるデータが公表され、急激に価格が下降します。特定の価格を下回ると買い手はいなくなり、次に購入できる機会は投資家のターゲット価格をかなり下回るときです。ストップロス注文を行っていたら、予期せぬ追加の損失を被っていたでしょう。この例でいうと一単位 800 円です。しかし、この場合は判定時刻までに価格がオプションのバリアに達しないかぎり、1,000 円のペイアウトを受け取ることになります。

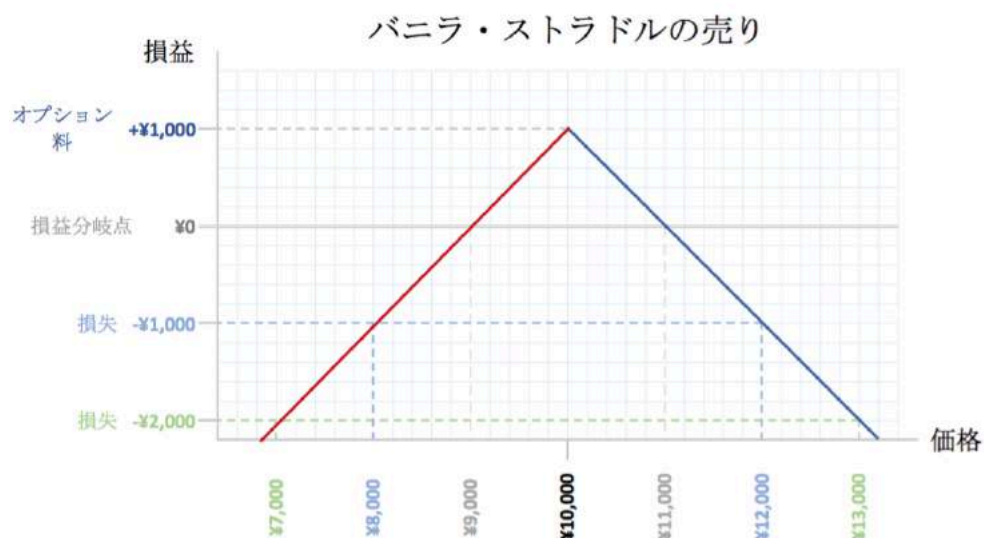
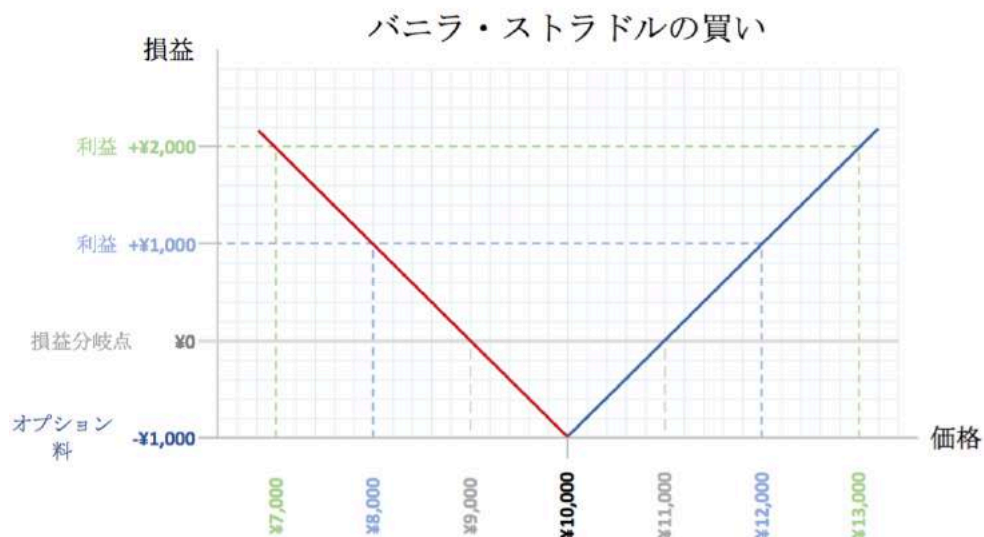
そのため、この例において投資家はオプションに 200 円を支払い、所有しているオプションのターゲット売却価格よりも 800 円余分に損失しています。しかし、オプションの 1,000 円のペイアウトによりこれを補うことができます。



ストラテジーの組み合わせ

トレードとヘッジ双方に使用できるより複雑なストラテジーは、両方向での決済機会をつくるために2つのポジションをもつことです。

同じ権利行使価格のバニラ・コールオプションとバニラ・プットオプションを購入することをバニラ・ストラドルといいます。どちらかの方向に適度に市場が動いた場合に、利益を生み出すことができます。しかし、市場が十分に動かなければ、2つのオプション費用がかかるため、損失を生み出すこととなります。従って、ボラティリティトレードでは、価格の変動が大きいほどリターン率が高くなるということです。オプションの売り手は逆のリスクを有します。

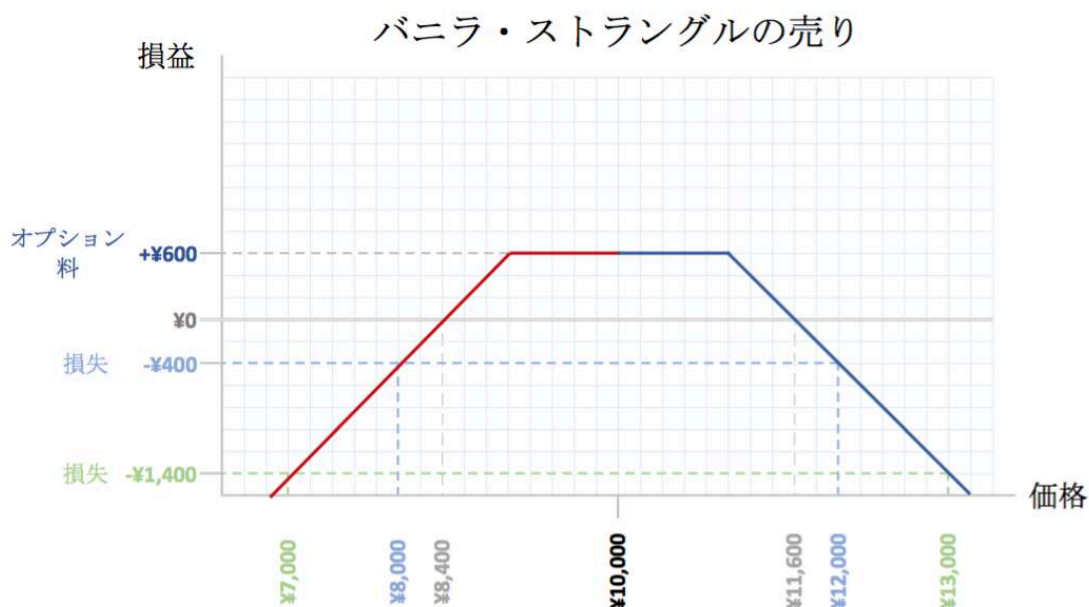
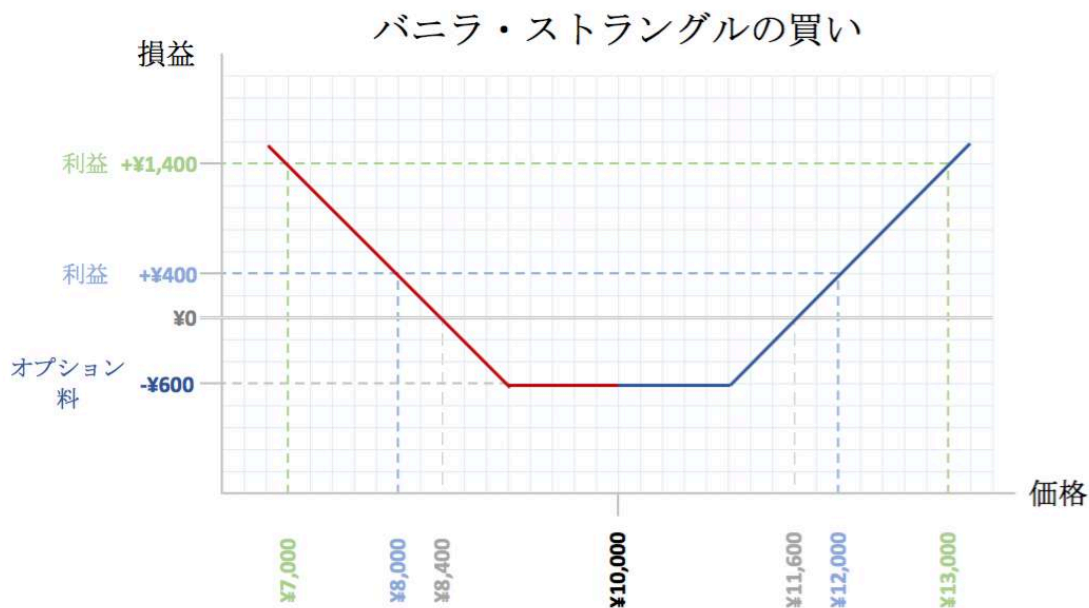


取引とヘッジ



Binary.com
Trusted by traders since 2000

バニラ・ストラングルは異なる権利行使価格のコールオプションとプットオプションを購入することになります。コールオプションの権利行使価格は現行価格よりも高く、プットオプションの権利行使価格は現行価格よりも低いものを買入れます。アウト・オブ・ザ・マネーの場合、ストラドルのアット・ザ・マネーオプションよりも安くなりますが、利益の獲得は難しくなります。

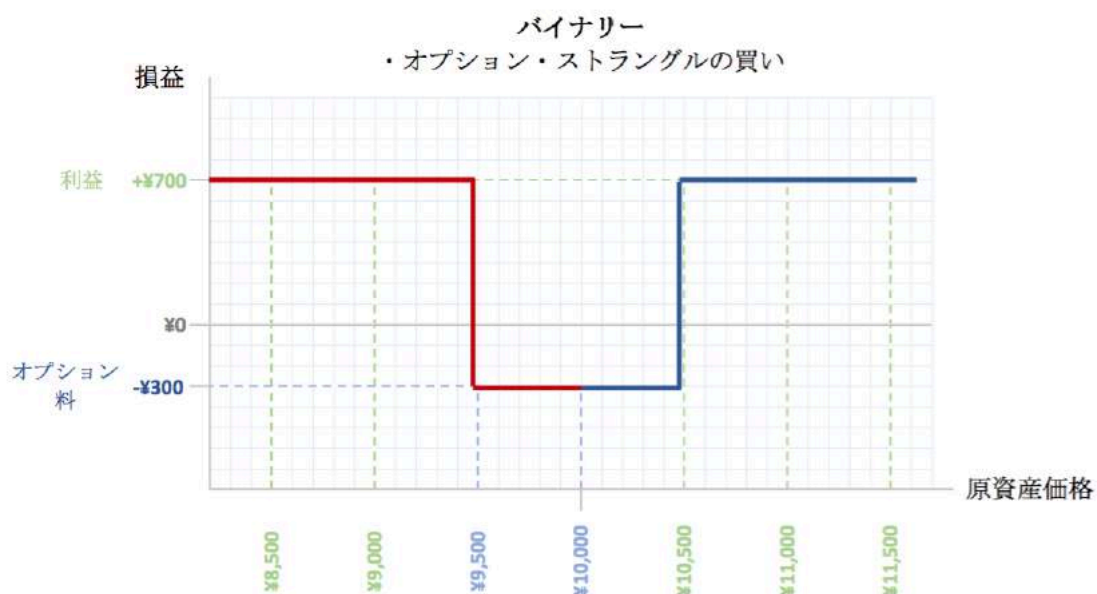


ストラテジーは一般的に原資産価格がどちらかの方向で大きな変動があった場合に利益があります。しかし、権利行使価格が現行価格にかなり近いようであれば、価格が適度に動いた場合にも利益があります。



バイナリーオプションについては、2つのオプションの費用が見込みペイオフを超えるようであれば、ストラドルトレードは意味をなしません。しかし、バイナリーコールオプションを購入する状況でならストラドルポジションがつけられます。その後、投資家は同じバリア水準のバイナリープットオプションを購入することでヘッジをします。

バイナリー・オプション・ストラングルはレンジ・バイナリーオプションと同じです。資産価格が判定時刻に2つのバリアの外で終了すると判断した場合、バリアよりも高いバイナリーコールオプションとバリアよりも低いバイナリープットオプションを購入することができます。しかし、同じバリアに設定されたレンジのレンジ・バイナリーオプション END-OUT トレードを購入して全く同じポジションをつくることも可能です。

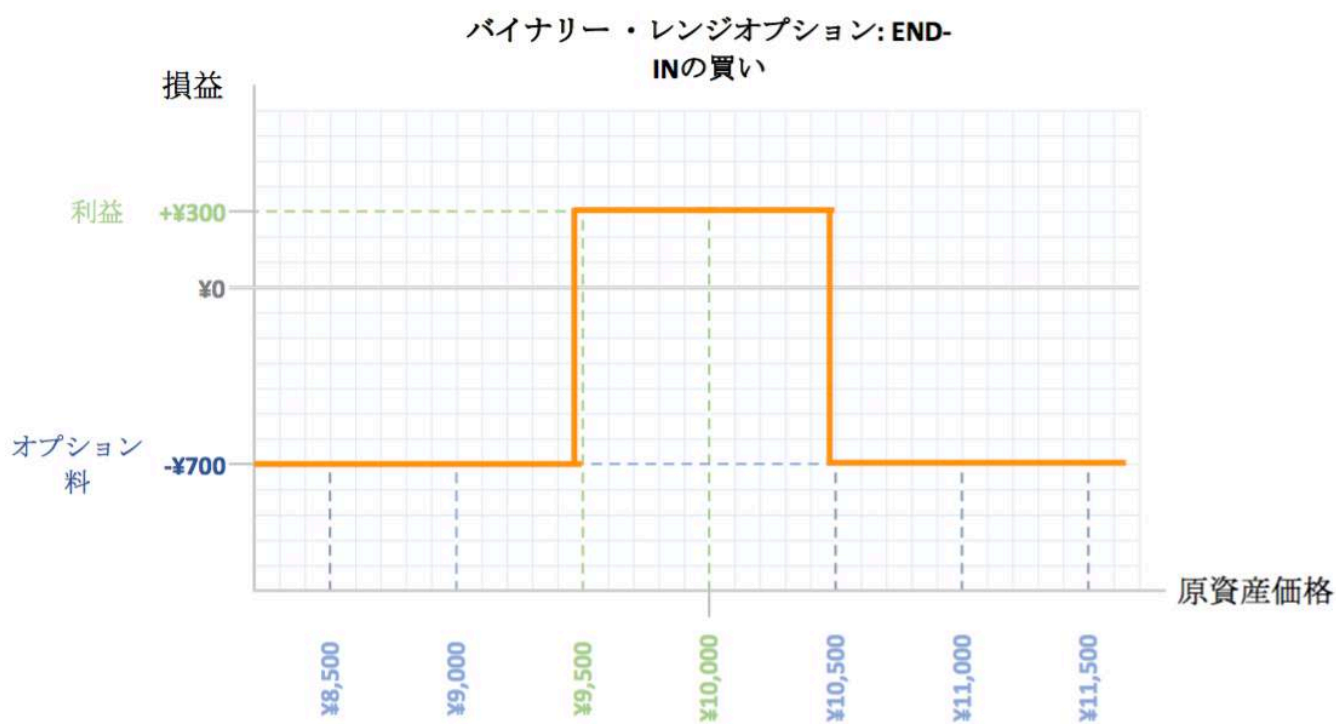
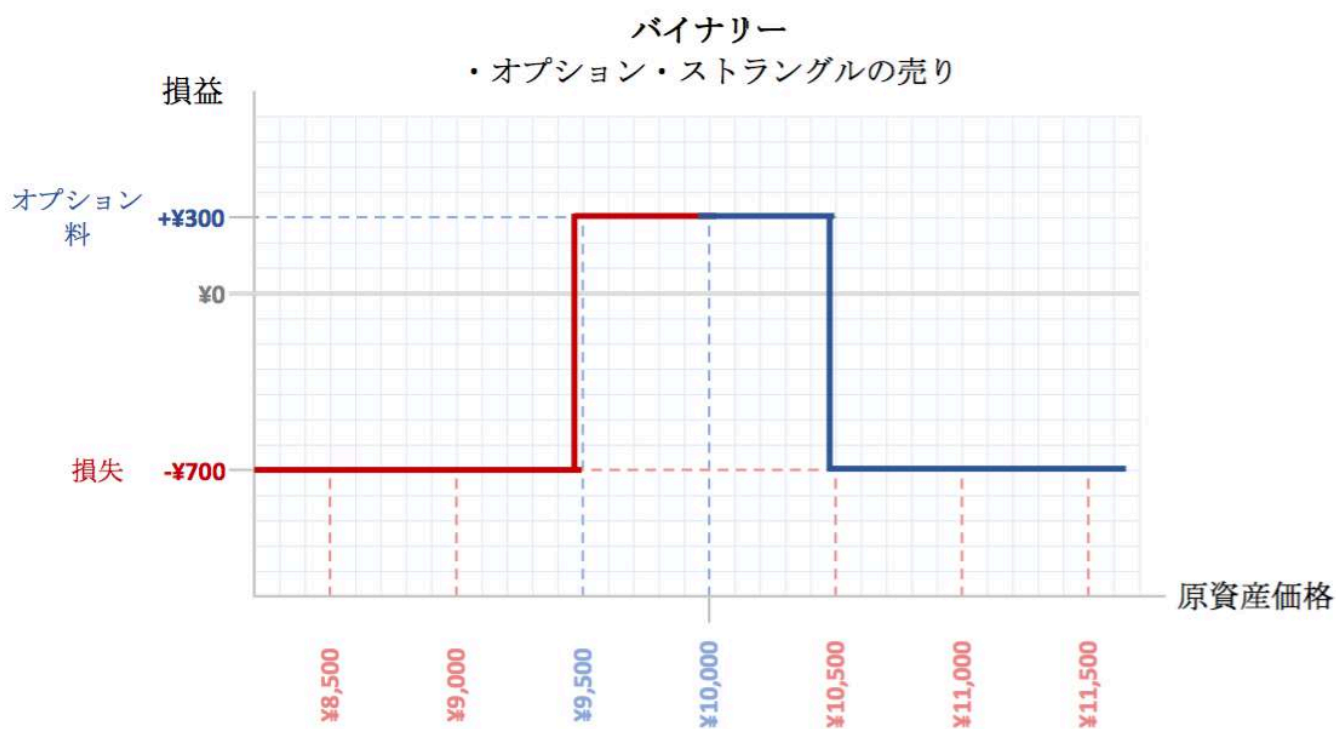


取引とヘッジ



Binary.com
Trusted by traders since 2000

正反対の取引手法はバイナリー・オプション・ストラングルの売り手と同様です。しかし、レンジ・バイナリーオプションの種類を売却することは、逆のポジションを**購入**していることと同じになります。



キーポイント

- ヘッジは損失リスクを軽減することができ、または未来の価格変動に対しリスクを補うことも可能です
- ヘッジは長期または短期取引で有効です
- バイナリーオプションは特定のイベントやタイミングに対するヘッジとして役立つかもしれません
- バニラオプションはより利益を生み出すために複雑なストラテジーを組み合わせることができます
- 大きな価格変動が起こると判断した投資家は、両方向での決済機会をつくるためにプットオプションとコールオプションの両方を購入し、どちらかの方向で大きな変動があった場合に利益を生み出すことができます。
- バイナリーオプションはストラテジーを組み合わせにより、レンジ・バイナリーオプションと同じポジションを持つことができ、資産価格が判定の時点で2つのバリア内または外で終了した場合、投資家は利益を得ることができます。



平成29年3月9日制定